

## 第6回

南相馬市まち・ひと・しごと

創生有識者会議

会 議 録

南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議

## 第6回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

会議の名称	第6回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議			
開催日時	平成28年1月23日(土) 13時35分開会・15時15分閉会			
開催場所	南相馬市役所 本庁舎3階 第1会議室			
委員長	高木 亨(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)			
委 員	移住者代表 副委員長		武藤 琴美	
	原町青年会議所	理事長	杉内 亜希	×
	原町青年会議所	総務委員会委員長	和田 智行	×
	小高商工会	青年部長	片岡 太成	×
	鹿島商工会	青年部長	若松 真哉	×
	原町商工会議所	青年部副会長	松本 卓真	×
	原町地区連合会	事務局長	澤田 精一	
	A.C.ハマーズ2001	副会長	原田 正己	×
	A.C.ハマーズ2001		仲野内 勇作	×
	ひよこサークル		福崎 歩未	
	原町第一小学校PTA	会長	谷田部 真敏	×
	あぶくま信用金庫本店営業部	融資係主任	遠藤 敬志	×
	移住者代表		鈴木 聡子	
	南相馬みらい創造塾	卒塾生	佐藤 まゆみ	×
事 務 局	復興企画部	部長	安部 克己	
	企画課	課長	植松 宏行	
		課長補佐 兼企画係長	涌井 秀之	
		企画係主査	藤原 道夫	

## 1 開 会

## 2 委員長あいさつ

これまで委員をおつとめいただいた原町地区連合の諸橋誠敏さんが辞任し、新たに同じく原町地区連合の澤田精一さんが委員に就任したため、挨拶をいただいた。

## 3 協議事項

### ( 1 ) 南相馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

企画課主査

資料に基づき説明。

委員

広報について、先日東京で移住セミナーが開催された。これは東京のふるさと回帰支援センターが主催したもので、移住を推進する自治体が集まってPRを行うもの。南相馬市にもふるさと回帰支援センターという名称の機関はあるが、東京の支援センターと今後つながっていったほうが絶対に効果は上がると思う。

東京の支援センターは有楽町という好立地にある。昨年のシンポジウムでは石破大臣を呼ぶなど、全国各地とのつながりや力もあり、そことの連携を深めるべきと思う。

委員長

外部の団体との連携を入れることについてはいいと思う。

さらに私からも一点提案だが、P63の「放射線に関する調査・研究」の項目において、情報の発信の視点も入れたほうがいいと思う。

委員

パブリックコメントで寄せられた意見の中に「跡継ぎ優遇」がある。周りからも「跡継ぎのメリットがない」「ここに住むメリットがない」「大学等で学んだスキルを生かせる企業がない」といった声を多く聞く。若者の定住を進める上では、南相馬市に住むことのメリットをもっと発信していくことが必要だと思う。

「住みやすい南相馬市」ということを考えたときに、復興作業員の多さが気にかかる。外国籍の作業員の事件なども報道されており、人が集まらないから外国人からも採用しているのだろうが、住民からすると安心して暮らすためには、作業員を厳選してほしいという思いはある。

晩婚化し、最初の出産が高齢化すると、子育ての期間と親の介護の期間が重なるようになる。そういった環境に進んで嫁ぐ女性を呼び込むことは難しい。そういった負担感を軽減するために、高齢者施設の整備を進めてほしい。

あるいはパブリックコメントでも「高齢者ユートピア」ということで意見が出されているが、高齢者が高齢者を支える社会をつくることで、若い人がさほど気負わなくても入ってこられるような仕組みを考えるべきだと思う。

#### 委員長

私も広野町を中心に作業員について調べている。アンケートでもどれだけの作業員がいるのかわからないということが住民の不安につながっているとの結果となっている。共存共栄というよりも、都会のような感覚であまり関わり合いを持たないことがベターなのではないかという話をしている。警察がもっと情報を出せば、安心につながるのではないかという話もある。

川内村のように、作業所に対して感謝状を渡すことで、作業員が関わる事件・事故を未然に防止する取組みを行っているところもある。

#### 委員

根本的に考えれば、作業員の管理等についてはそれが下請けであっても元請けに責任が及ぶ。市として元請け会社に対してどのような人選をしているのかなどについて、確認することはできるはず。除染作業で使用したマスク等をコンビニ等で捨てることは、マニュアル違反のはず。市はそういったことに対してクールに対応すべき。

#### 委員長

実態は、元請けでも下請けのことをよく把握していないという話を聞く。

#### 委員

以前除染を業務として担当していた立場から話をすると、基本的に除染作業については二次下請けまでしか認められておらず、その先はグレーゾーンである。ただ、市はJVと契約の際仕様書を作成しており、仕様書に従った指導などを行っているはずであるが、下請けの数が多すぎて末端まで行き届かないというのが実態だと思う。

#### 委員長

ほかに若者の移住について何かあるか。

#### 委員

南相馬の魅力について、5年間住んでみて感じたのは人生が長く感じるということ。通勤時間がほとんどかからないというのが大きい。東京であれば終電ぎりぎりまで仕事をして、その後1時間以上かけて電車で帰るというの

が普通だが、ここはそれがない。余った時間でイベントを開いたり習い事をするなど、有意義に時間が使える。宣伝すべきことだと思う。人生を楽しみたい人がたくさんいて、そのための時間もある。こんな素敵な場所はない。

委員

課題・問題があるのはどこのまちも同じで、何からやるのかが重要だと思う。問題・課題を並べて終わりではなく、具体的にどこから始めるかを絞らないと、結局何も進まないということになりかねない。まずはやることを絞って、それを誰に対してどのように発信するかが重要だと思う。

事務局

今いただいたご意見は、できる限り戦略に反映させていきたい。

## (2) 有識者会議提言書について

委員長

次に、この有識者会議の提言書についてに移る。  
簡単に事務局より説明を求める。

企画係主査

前回の会議の中で松本委員から「LINE」のような形で提言書をつくれないかとの提案があり、ほかの方からも賛同を得たことから、資料のとおり提言書(案)を作成した。

委員長

この提言書(案)に対し何か意見があれば。

委員

この提言書を市長に手渡した後は、どのような取り扱いとなるのか。

企画係主査

市のホームページの中の「まち・ひと・しごと創生有識者会議」のページに掲載する予定である。プレスリリースもこの形で行う。

委員

読みやすくいいと思う。とりあえず最後まで読んでみようかなと思える。

委員

高校生が読んですんなり内容が入ってくると思う。これまであまり行政に関心がなかった人にとっても良い資料ではないか。

委員

このまちに何を求めるかみたいな話のときに、この提言書がコミュニケーションツールとしての機能を果たすのではないか。何もなくて話すよりも材料があったほうが話しやすいと思う。

委員

全体的にルビをふると子どもたちも読みやすいのではないか。

この様式を使用することについて、著作権的に問題はないのか。確認が必要だと思う。

企画係主査

このデザインの使用については、LINEに確認することとする。

委員長

内容的によいとすれば、最後のページを見てほしい。最後ののまたんの吹き出しが空欄になっているが、ここに提言のまとめを入れていきたいと思う。どういった内容にすべきか、意見を求める。

委員

「ワクワクしますね〜。」と入れたらいいのではないか。

委員

これを読んだ人がそれぞれで最後に入れるために、あえて空けているのかと思っていた。あえてまとめるのではなく、これを読んで面白いと思った人がここに書いて送れるようにしたらよいのではないか。それで各区役所の窓口で「サクラインポスト」を置いて、自由に入れてもらえるようにすれば、なお良いと思う。「意見書」や「要望書」の形だとかしまってしまうが、この形式なら気軽に声を届けられる。

寄せられた意見は、ホームページに蓄積して公表していけばいいと思う。

委員長

提言書のどこかで、この提言書を使って意見を募ることを提案してもいいかもしれない。

委員

会議の中で、こういう形の提言書にすることにした経緯の話もあったはずなので、そういった内容も入れたほうが良いと思う。

委員長

それでは前書きのような形でこの形となった経緯について入れることを検討したい。提言とするとハードルが高いので、「SAKULINE」に対する意見・感想ということにしたい。

最後に市長に提言書を渡す人を決めたいと思うが、どうするか。

委員

仲野内委員と松本委員がいいと思う。

委員長

皆さん異議がないようなので、お二人にお願いすることとしたい。

## 4 その他

### (1) 市長へ提言書を提出する日程について

事務局

2月9日(火)に市長の予定を確保しながら、そこで提言書を提出していただくことを考えている。出席可能な方は、ぜひともご出席いただきたい。詳しくは改めてお知らせする。

委員

了。

## 5 閉会